

授業科目名	民法Ⅲ（担保物権法）	期別	後期	授業形態	講義
担当者名	石松 勉	単位数	2	開講年次	1

授業科目の概要

本講義では、民法第二編『物権』のうち、法定担保物権である留置権、先取特権、約定担保物権である質権、抵当権の具体的な中身について学んでいく。さらに譲渡担保等の非典型担保についても学ぶ。

到達目標

- (1) 法定担保物権である先取特権、留置権の中身、その法的諸問題について理解を深め、わかりやすく説明できること。
- (2) 約定担保物権である質権、抵当権の中身、その法的諸問題について理解を深め、わかりやすく説明できること。
- (3) とりわけ抵当権をめぐる法的諸問題について理解を深め、わかりやすく説明できること。
- (4) 非典型担保の代表格である譲渡担保について、要件・効果に関する様々な法的諸問題について理解を深め、分かりやすく説明できること。
- (5) 仮登記担保・所有権留保・代理受領等の意義や効力についても説明できること。
- (6) この分野の基本的な法的知識の修得を基にして、立場固定、立場互換をしながら自分の考え方を説得的に書いたり、発表、説明したりすることができるようになること。

成績評価基準および方法

定期試験 70%、課題レポート（8～9 回程度）・小テスト（2 回程度）20%、授業中の質疑応答 10%の割合で総合的に評価する。その際、上記到達目標に対応した基本的、基礎的な法律知識の修得ができているかどうか、論理的、説得的な発言、論述等ができていているかどうか、法的思考能力、説明力・表現力・プレゼンテーション力等が身に付いているかどうかをみる。

テキストおよび参考文献

<教科書>

- (1) 松尾弘＝古積健三郎著『物権・担保物権法〔第2版〕』（弘文堂・2008年）
本体 4,000 円 ISBN978-4-335-30315-9〔前期開講科目『民法Ⅱ（物権法）』のテキストとして使用するもの〕
- (2) 内田貴著『民法Ⅲ債権総論・担保物権〔第3版〕』（東京大学出版会・2005年）
本体 3,500 円 ISBN4-13-032333-4
- (3) 瀬川信久ほか著『民法判例集 担保物権・債権総論〔第3版〕』（有斐閣・2014年）
本体 2,900 円 ISBN978-4-641-13691-5

<参考書>

- (1) 別冊ジュリスト 237 号『民法判例百選Ⅰ総則・物権〔第8版〕』（有斐閣・2018年）
本体 2,200 円 ISBN978-4-641-11537-8
- (2) 松本恒雄＝潮見佳男編『判例プラクティス・民法Ⅰ総則・物権』（信山社・2010年）
本体 3,600 円 ISBN978-4-7972-2626-3（今年第2版の刊行が予定されています）

※事前の予習範囲を示した講義レジュメを毎回配布するので、それに沿って上記の教科書・参考書を基に予習を図ること。
なお、各分野における参考文献については、講義の際に適宜指示する。

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

受講者は事前に、毎回の講義レジュメに示された教科書の指定箇所を熟読し、さらにその中に掲げられた事例問題や重要裁判例を事前に考え、あるいは精読して講義に臨むように（3～5時間程度を目安に予習を図ること）。授業は講義6割、質疑応答4割程度を目安に双方向、多方向で進めていく予定であるので、受講者は自分の頭で考えて理解できたことを講義の際に発表できるように準備してきてください。講義終了後は、各分野の基本的事項のさらなる定着を図るために、過去の司法試験短答式問題やTKCの確認問題等を活用し、また、予習の際には気づかなかった問題点や講義の中で浮き彫りとなった疑問点については、再び教科書、参考文献を基に復習をかけ、掘り下げた検討を行って深く理解できるようにしておくこと（1時間程度の復習）。

授業計画および内容等

第1回	担保物権法序論	わが国における担保制度について概括的な説明を行った上で、民法典における担保物権法の構造、特別法による担保制度、非典型担保等について概観する。
-----	---------	--

第2回	先取特権	先取特権制度の意義や種類等のほかに、その果たす社会的機能も意識しながら、その効果について検討する。
第3回	留置権	同時履行の抗弁権制度との相違、その要件として問題となっている債権と目的物との牽連性、留置権の担保的な側面（優先弁済的効力、換価権等）を中心に検討する。
第4回	抵当権(1)	担保物権のなかで最も重要な抵当権についてその意義・性質、設定および効力等を概観する。この回では、とくに被担保債権の範囲について検討する。
第5回	抵当権(2)	今回は、抵当権の効力の及ぶ目的物の範囲の問題について検討する。
第6回	抵当権(3)	今回は、抵当権の物上代位の問題について検討を加える。
第7回	抵当権(4)	今回は、抵当権と利用権との問題、とりわけ法定地上権の問題と一括競売制度について検討する。
第8回	抵当権(5)	抵当権の優先弁済的効力としての実行、そして共同抵当や第三取得者の保護の問題について検討する。
第9回	抵当権(6)	抵当権の処分および抵当権の消滅について概観する。
第10回	根抵当権・小テスト	根抵当権の意義・設定・効力等について概観する。抵当権全般に関する小テストを実施する。
第11回	質権	抵当権とともに約定担保物権として民法に規定され、占有移転型担保として制度設計されている質権について学ぶ。特に不動産質、動産質、債権質を中心に、動産譲渡担保とも比較しながら検討する。
第12回	非典型担保(1)	譲渡担保の基本構造、法的構成、その意義や要件・効果について概観する。
第13回	非典型担保(2)	譲渡担保権の実行をめぐる諸問題、その他の譲渡担保（債権譲渡担保や流動集合動産譲渡担保）について検討する。
第14回	非典型担保(3)	仮登記担保と所有権留保の意義や効力についての問題点を検討する。
第15回	非典型担保(4)・小テスト	金融取引実務で活用されている代理受領や振込指定について概観した後、非典型担保の分野に関する簡単な小テストを実施する予定である。
関連 URL		
備考欄		